
緑色のp i a n i s s i m o

紅碧

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

緑色の pianissimo

【Nコード】

N8287Y

【作者名】

紅碧

【あらすじ】

西暦3090年。感情型ロボットの暁は、シルビアのかつての同級生で、人間の少女マリアと結婚していた。謎の宇宙海賊が太陽系を荒らしまわっている中、シルビアはこっそりと天王星の暁の予言占い店「メトロポリス」に遊びに行く。シルビアは暁に海賊が次に現れる時期と場所を占ってもらったのだが、？

第1章

星が綺麗だと思ふことと、あの人が好きだと思ふことは、同じだろうか。そういう気持ちをずいぶん長いこと忘れていたような気がする。

西暦3090年5月

マリア・ミカエルはヒューマノイド化し、見た目は人間の青年と一寸も変わらない、バーミリオン型ロボット「暁」と結婚した。

天王星で所帯を持ち、暁は日中は土星の大手ロボット製造業会社「サターン」の幹部として働く傍ら、月4回の土曜日午前中のみ、天王星に個人占い店「メトロポリス」を開店営業中だ。ストレス解消と悩み事のはけ口、相談専門だが、人気はポチポチらしい。

会社の幹部に居るのは、潰れかかった経営を彼がみごとに立て直した手腕からだという。また、太陽系連合は新会社としてのアンドロイド製造会社サターンを、人間だけではなくロボットにも参加させる経営体制を実験的に試み始めていた。

占い店は暁にとって趣味の一部でしかない。いわば、彼にとってのストレスの解消の場に等しかった。

人間のマリアは暁がロボットだということを認識している。人間とは違う彼が持つ真のやさしさとは何なのか。マリアは両親に捨てられた孤児である。人間の愛を受けられなかった彼女はそれがなにか知りたいと思うからこそ、人間ではない純粋なロボットの彼を選んだのだが、、、？。

3090年6月

占いをしにいこう

爽やかな風が木々の緑を吹き抜けていく。とても今日は気持ち如初夏日和であった。

というのは、1年中、春と夏しかない天王星に遊びにきていたせいだった。

占う、というよりも、この世の運命を、ダイスで決めるように、誰かの意見を聞きたかった。ただ、それだけなのだ。

宇宙海賊が、惑星間を荒らしまわっているという。惑星警察が懸命に取り締まってもかいくぐって悪さを続けているらしい。例の如く、秘密機構の調査局にも呼び出しがかかった。

頭をかかえるブラックを横目に、シルビアは男装して、天王星にこっそりと遊びに来たのである。

「いらつしゃい」

「予言占い店・メトロポリス・営業中」と書かれたエメラルド色の看板の店の奥に入ると店主は、オレンジの豊かな肩まで伸びたストレートの髪を、若草色のバンダナ、モスグリーンの警官服でスリムなボディーを包んでいる、一見美青年ではあるが、大きなバーミリオンの双眸は、人外のものだと一目でわかる。

「暁、久しぶり。肌の色、変わったんだね」

「ヒューマノイド化したのです。マリア様のおっしゃるとおりに「結婚した奥さんに、様、つけるの?」

「私はあの方に普段、下僕とよばれています」

「きわめつけの、M、だね、君って」

「ではシルバー様、これを」

と言い、ビニール製のトンカチを暁は、カジュアルな大学生風の美

少年に化けたシルバーに手渡した。

「私の占いがお気に召さない時はこれで、おもいつきり私の頭を殴ってください」

「、、、いいの？」

「私はロボットなので嘘をつけません。お客様のお気に召さない占いもそのまま伝えざる負えません。殴られても大丈夫です。私は痛くもかゆくもない、ロボットですから」

「マリアはこいつ以外とは結婚できまい。何回、暁をマリアはなぐつたんだらう。」

直径20cmほどのエメラルド色の水晶玉を目の前にして、暁は目を閉じた。

「見えます。見えます」

「、、、なにが？海賊のいるところ？早く教えて。暁」

「、、、きのうは、ですか」

「、、、！」

真っ赤になったシルバーがいきなり、トンカチをふりあげた。「死刑！死刑！死刑」つとビニール製の緑のトンカチが、合成音を発した。

「そういうこときいてるんじゃない。真面目に答えろ！インチキ占い師」

「インチキとは失礼な。ちよつとした冗談ですよ。海賊はですねえ」
暁はたたかれた頭のヘアスタイルを整え、バンドナをつけなおした。
「マリア様といい勝負だ。ジュニア様もたいへんですねえ。ええと、
、小惑星帯の中央に位置しています」

「それはいつ？」

「3日後です」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8287y/>

緑色のp i a n i s s i m o

2011年11月24日18時45分発行